

社会資本整備総合交付金

都市再生整備計画事業 事後評価

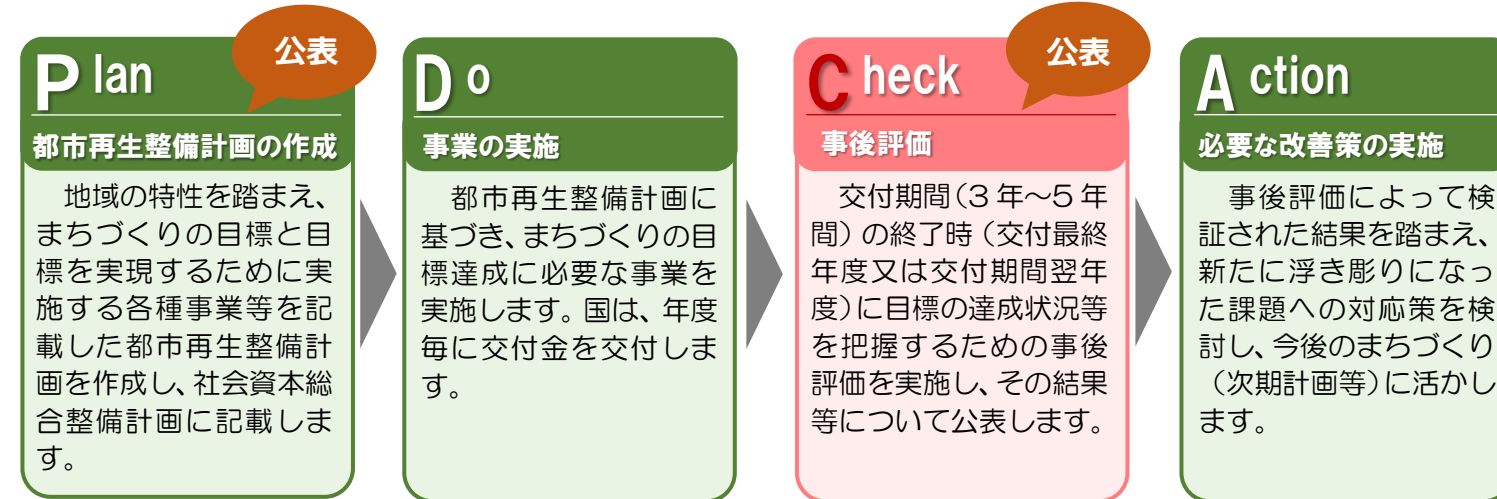
和泉中央駅周辺地区

都市再生整備計画事業とは？

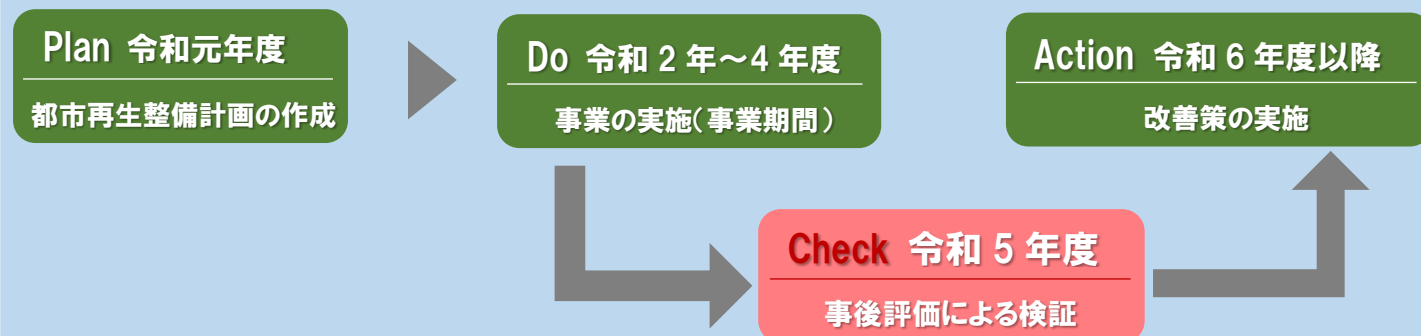
都市再生整備計画事業は、地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施し、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図ることを目的としています。

都市再生整備計画事業の流れ

都市再生整備計画事業では、地域が抱える課題やまちづくりのビジョンに基づき、まちづくりの目標や数値目標を達成するために必要な事業を記載した都市再生整備計画を作成（*Plan*）し、成果を意識しながら事業を実施（*Do*）し、交付期間終了時に目標の達成度を評価（*Check*）するとともに、必要な改善点は速やかに改善（*Action*）するという一連のサイクルを導入しています。

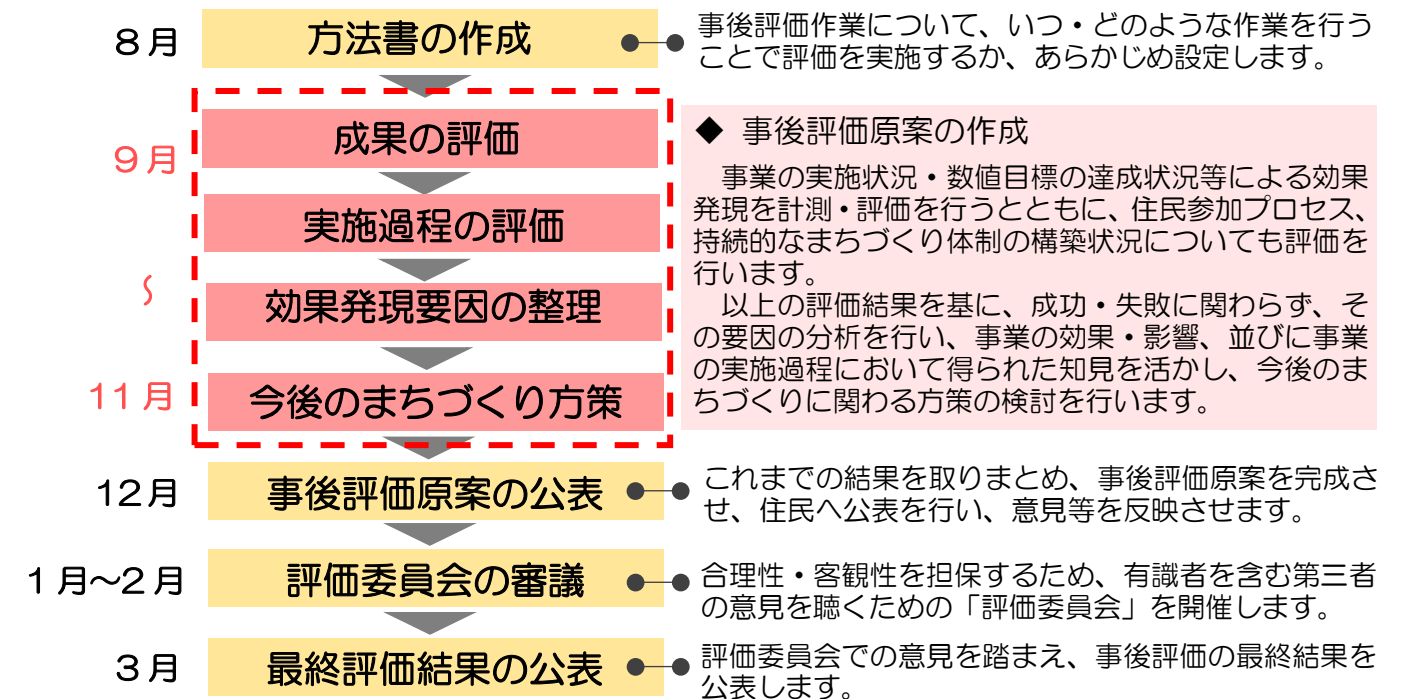


和泉中央駅周辺地区の経過>>



事後評価（Check）の概要

◆ 事後評価における検証のフロー



都市再生整備計画の内容

◆ まちづくりの課題

- 駅周辺地区は、「あんしん歩行エリア」の指定がされているが、地域住民の声として「歩行者の乱横断」、「駅前広場のアクセス性」などの課題が挙げられており、安全な歩行空間が確保されていない。
- アンケート調査の結果、駅前広場の課題として、「バスターミナルへの一般車の流入」や「シェルターなどの機能充実」が挙げられている。また、駅周辺道路に送迎車両が駐停車し、円滑な交通に支障をきたしている。
- 駅周辺道路において慢性的な交通渋滞が発生しており、生活の基盤となる道路の円滑な交通を妨げている。
- 本地域は「久保惣ミュージアムタウン」と位置付けされているが、美術館までの円滑な誘導を行うサインが不足しており、地域資源を上手く活かせていない。

◆ まちづくりの目標

大目標 大目標：誰もが快適で安心して住み続けられるまち《スマイル（住まう・居る）都市》の実現

- 目標1** 住み続けたいくなる快適な都市環境の整備（誰もが安心・安全に通行できる快適な駅前・道路空間の創出）
- 目標2** 外出を容易にする交通機能の充実（利用しやすい公共交通の充実、交通結節点機能の改善）
- 目標3** 地域の特性を活かした魅力あるまちづくり（住み続けたいくなるまちづくりを目指し、歴史・文化のまちとして発信できる駅周辺の機能の充実）

基幹事業

和泉中央駅周辺地区 事後評価

基幹事業



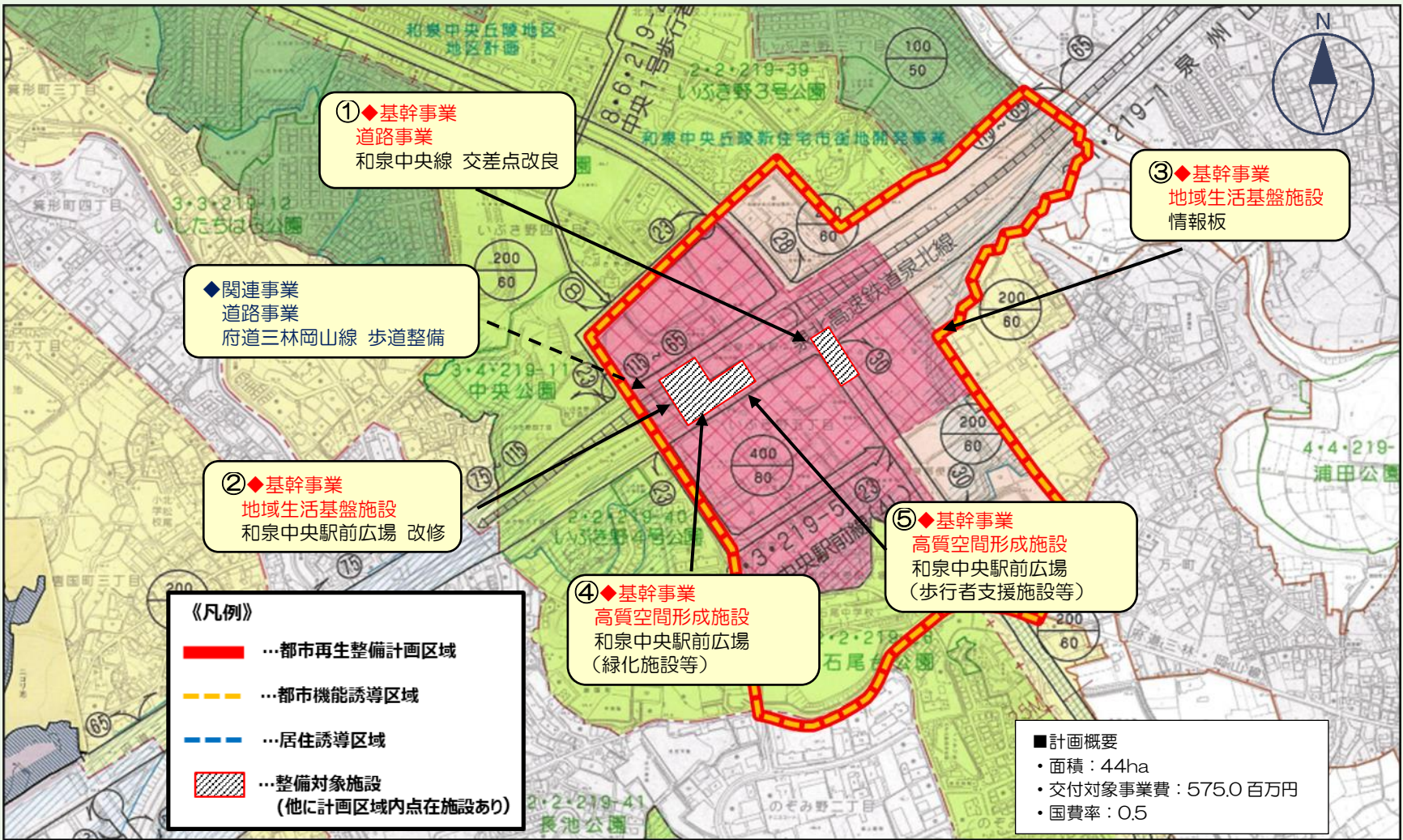
【道路事業】

和泉中央線 交差点改良 (L=180m)
(18.0 百万円)



【地域生活基盤施設】

和泉中央駅前広場 改修 (A=8,100 m²)
(235.5 百万円)



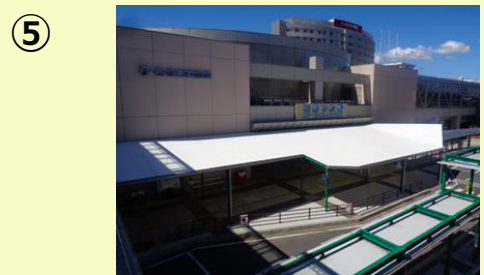
【地域生活基盤施設】

情報板 (18 基) (14.2 百万円)



【高質空間形成施設】

和泉中央駅前広場 緑化施設等 (A=8,100 m²) (72.9 百万円)



【高質空間形成施設】

和泉中央駅前広場 歩行者支援施設等 (A=643 m²)
(234.4 百万円)

効果発現状況の確認

指標項目	従前値 (基準年度)	目標値 (R4 年度)	評価値 (目標達成度)	検証による総合所見	今後の活用・改善の方針
居住促進区域内に居住する人口 (人)	49,414 (R1)	49,910 (R4)	51,309 (○)	駅前広場の改修や情報板の設置等により、駅周辺の利便性や、交通結節点としての機能改善が人口増に寄与。	引き続き、都市機能の充実や、都市拠点としての魅力の向上に繋がる施策を行い、更なる居住人口の増加を目指す。
道路・公共交通に対する市民の満足度 (市民アンケート) (%)	43 (H30)	50 (R4)	46 (△)	駅前広場改修直後は満足度が目標値近くまで上昇しており、一定の効果が発現したと考えられる。ただし、定量的な数値でみると目標未達成となっている。	道路・公共交通の快適性や安全性の向上に資する事業を実施する。
和泉中央駅付近の人身事故発生件数 (件)	36 (H30)	30 (R4)	30 (○)	交差点改良や駅前広場、歩道の整備により交通の安全性が高まったことが寄与。	事故についての注意喚起を行う等、ソフト面での対応を行い、交通空間の安全性向上を図る。
和泉中央駅バスターミナルへの一般車交通量 (台/2h(7-9 時))	479 (H29)	—	2	駅前広場の配置見直しによりバスと一般車の通行を分離することができたため、利用しやすい安心・安全な駅前空間を確保することができた。	その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)

今後のまちづくり方策

- ・整備した駅前広場や情報板の機能を維持するため、舗装やシェルターの定期点検や情報板の内容を適宜更新する。
- ・快適性や安全性の向上を目的として、ミスト発生器の設置による駅前の猛暑対策や駅でのホームドア設置（泉北高速鉄道）を行う。
- ・駅周辺へのアクセス性や利便性を更に高めるため、府が実施する事業（一般府道三林岡山線 道路改良事業）と連携して、引き続き、円滑な交通流の確保に努める。
- ・自動車、自転車の安全な通行を確保するため、ナッジなどを活用した方策の検討を行い、交通環境の形成に努める。
- ・今後、同種事業（北信太など）で駅前整備を行う際は、今回の整備計画で実施した駅前広場の配置見直し結果を踏まえ、駅利用者にとって安全で快適な道路空間の整備を行う。